三鷹市立南浦小学校　令和8年度【音楽】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		○リズムを感じながら歌ったり、手拍子をしたりして、体全体で音楽を楽しめるようにする必要がある。 ○楽曲の特徴（気分や速さなど）を感じ取って聴くことができるようにする必要がある。 ○鍵盤ハーモニカの基礎的学習をする。	○年間指導計画に沿った指導をする中で重点的に音楽の諸要素（リズム・ハーモニー・テンポ・フレーズ感）を身に付ける素地を養う。 ○リズム遊びや簡単な身体表現を取り入れ、リズム感覚や表現の技能を体感しながら身に付けられるようにする。 ○鑑賞の学習では、想像したことや感じ取ったことを言葉や絵にして表し、発表の場を設けクラスで共有し、友達の感じ方の良さにも気付けるようにする。
第2学年	○拍の流れやテンポを感じ取りながら歌ったり、音楽にあわせて体を動かしたりして友達と一緒に楽しさを味わうことができた。 ○鍵盤ハーモニカの基礎の学習が出来た。 ○音楽会に向け、合奏や合奏に取り組み、みんなで音楽を作り上げ、達成感を味わうことが出来た。	○楽曲の特徴（曲の雰囲気や速さ）を感じ取って聴くことができるようにする必要がある。 ○歌唱や演奏などを楽しむことについて個人差がある。 ○歌唱では声の大きさに個人差がある。口を開かない、怒鳴るように歌うなどの姿があるので、表現豊かに歌う方法があることを気付かせる必要がある。 ○鍵盤ハーモニカの学習では、技能面での個人差が大きい。片手人差し指だけ弾く、連続する同じ音をタンギングではなく、指でコントロールするなどの姿が見られる。	○年間指導計画に沿った指導をする中でも重点的に音楽の諸要素（リズム・ハーモニー・テンポ・フレーズ感）を身に付けるのに適している教材を選択し、指導する。特徴的なフレーズを部分的に取り上げて着目させる。 ○リズムの聴取や表現、身体的な反応など、児童が楽しみながら取り組むことのできる場を作る。 ○鍵盤ハーモニカの個別指導を随時行っていく。 ○鑑賞の学習では、想像したことや感じ取ったことを言葉や絵にして表し、発表の場を設けて、友達の感じ方のよさにも気付けるようにする。
第3学年	○リコーダーの入門を効果的に行った。 ○友達と音を合わせて奏でる音楽表現の楽しさを感じ進んで音楽に関わる児童が増えた。 ○基礎的な表現や鑑賞の能力に個人差がある。 ○音楽会に向け合唱や合奏に取り組み、みんなで音楽を作りあげる活動をした。	○様々な音楽に親しむ中で多様な表現や工夫の方法があることに気付かせる必要がある。 ○表現活動、鑑賞活動をするための基礎的な力を積み上げていき、音楽のよさや面白さ、美しさを感じとれるようにする必要がある。 ○リコーダーの基礎的学習をする。ステップアップとして、タンギング奏法を身につける。 ○声の大小には個人差がある。表現豊かに歌う方法方法に気付かせる必要がある。	○器楽では、基礎的なパート、発展的なパートがある教材を選定し、簡易楽譜を準備するなどの工夫をし進度の異なる児童が同じ曲を楽しめるようにする。 ○演奏したり、鑑賞したりすることを通して音楽の基礎知識を定着させる。 ○鑑賞では、必要なキーワード、共通事項の音楽用語、文章表現を教え、鑑賞能力を高める指導をする。
第4学年	○器楽では、基礎的なパートと発展的なパートがある教材を選定し、簡易楽譜を準備するなどの工夫をして進度の異なる児童が同じ曲を楽しめるようにした。 ○声の大小には個人差があるが、表現豊かに歌う方法を理解することができた。 ○音楽会に向け、楽器の扱い方、正しい奏法を身に付けさせる。演奏会でのマナー等を適宜指導した。	○リコーダー学習において、教師を真似て吹く練習をしたり、遅いテンポから吹いたりすることで、指使いで迷うことなく演奏できる児童が増えた。 ○歌の学習において、高い音の出し方のポイントを具体的に伝えた。練習を積み重ねることで、話し声ではなく歌声で歌うことを意識できるようになった。 ○お互いの歌声やリコーダー演奏を聴き合う機会を何度も設けることで、自分の課題に気付いたり、友達の良いところを伝え合って自信につなげたりすることができた。 ○リコーダーのタンギング奏法について指導はしたが、習得できていない児童が多い。 ○高い音を歌うとき、無理に地声で歌う児童がいる。	○舌でリコーダーの音を切ることができるよう、「トゥートゥー」と発音しながら歌わせたり、吹いているときに頬が膨らんでいないか鏡や友達同士で確認しながら練習したりすることを今後も継続して行う。 ○高い音を歌うときのポイントは引き続き指導しつつ、ポイントをつかめている児童をお手本で歌わせたり、自分の歌声を録音して客観的に聞かせたりして、上達を図る。 ○高い音を歌うときの口の形や身体の使い方を繰り返し指導することで、技能の定着を図る。
第5学年	○リズムの学習は、視覚的教材を積極的に取り入れ、楽しみながらリズムや拍感を育んでいいけるようにした。 ○リコーダーの基礎はおおむね身に付いてはいるが、タンギング奏法には個人差がある。 ○音楽会に向け、楽器の扱い方、正しい奏法を身に付けさせる。演奏会でのマナー等を適宜指導した。	○わらべうたを通して、音楽を形作っている要素について理解を深めたり、基本的な音楽記号について読み方や意味を理解したりすることができた。 ○お互いの歌声やリコーダー演奏を聴き合う機会を何度も設けることで、自分の課題に気付いたり、友達の良いところを伝え合って自信につなげたりすることができた。 ○歌詞から情景を想像したり、歌い方の工夫を話し合ったりする時間を丁寧に設けたことで、表現力豊かに歌うことを意識させることができた。 ○リコーダーの個人練習において、ステップアップシートを活用させているが、練習の質に差がある。 ○基本的な音楽記号についておおむね理解はしているが、記憶の定着までは至っていない児童がいる。	○ステップアップシートは引き続き活用しつつ、教師側でグループを組んで練習をさせたり、練習動画を送らせたりすることで、どの児童も練習の質を保てるようにする。 ○基本的な音楽記号については、フラッシュカード等を使用して繰り返し指導することで、記憶の定着を図る。 ○リコーダーの練習では、様々な児童とグループを組むことで、お互いの演奏を聴き合い気付いたことをアドバイスし合うことで練習の質を向上させるようにする。
第6学年	○みんなで声を合わせて歌うよさを感じ取らせるため、クラス全体と児童を個々の表現を価値付けしながら取り組ませた。発声に気を付けながら、2部合唱に取り組んだ。 ○学習形態（ペア、グループ）を工夫し、互いの表現を観て、聴いて、感じ、自己に生かせる機会をつくった。 ○音楽会に向け、楽器の扱い方、正しい奏法を身に付けさせる。演奏会でのマナー等を適宜指導した。	○合奏の編成を自分たちで話し合って考えさせることで、意欲を高め、練習に取り組むことができた。 ○お互いの歌声を聴き合う機会を何度も設けることで、自分の課題に気付いたり、友達の良いところを伝え合って自信につなげたりすることができた。 ○歌詞から情景を想像したり、歌い方の工夫を話し合ったりする時間を丁寧に設けたことで、表現力豊かに歌うことを意識させることができた。 ○歌声の声量に個人差があり、遠くまで響かせる歌声において課題がある児童が多い。 ○より良いアンサンブルにするための改善案について、意見をもつ児童が少ない。	○友達同士でアドバイスをしあう活動を継続しつつ、遠くまで響かせる歌声で歌えている児童をお手本で示したり、自分の歌声を録音して客観的に聞かせたりして、上達を図る。 ○より良いアンサンブルとはどんなアンサンブルなのかを話し合い、楽器編成や音量バランスを考えさせ、録音を客観的に聞くことで、自分たちのアンサンブルについて振り返り改善していくことができるようにする。 ○歌声を遠くまで響かせることができるように発声練習や歌う時の口の形、身体の使い方を意識するように指導していく。 ○より良いアンサンブルにするための改善案について意見がもてるように、交代で聴き役になることで少しずつでも児童の意見を引き出せるようにしていく。